

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 6月 10日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	The University of Sheffield
卒業・修了後の就職(希望)先:			
()1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) (○)3.公務員 ()4.非営利団体 ()5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要					
マンチェスターから電車で1時間、イギリスの真ん中のあたりに位置するRussel Groupに属する総合大学。Student Unionが英国でも一位をとっており、学生の交流も活発な大学。近くにあるもう一つの大学、Sheffield Hallam Universityは元ポリテク系。					
留学した動機					
生まれてからずっと東京の実家暮らしだったので、世界から客観的に日本を見れるように海外生活をすると同時に、寮で親元を離れて自立した生活を送る良い機会になるというのと、英語多読で培った英語力がどこまで通用するか試したいという気持ちがあった。そこで、高一で訪れて以降好きなイギリスという国の交換留学を選んだ。					
留学の時期など					
①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年		2月~	2016年	6月
	学部3		年時に出発		
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	4月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			74	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			?	単位
	留学後の取得(予定)単位			?	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年		4月入学	2018年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:			5年		0ヶ月間
⑨留学時期を決めた理由:					
サークルでの役職が一区切りついたあとで、就活前に行くことを考えるとこの時期だった(教養学部の成績だけで行けるというもある)					
留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					

不安も多いとは思いますがしっかり読んで早め早めにやっておけば大丈夫だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

半年以内なのでShort-term Student Visa。空港でOffer Letterを提示すれば発行されます。日本で発行してから行こうとすると、高額な料金を払うことになるみたいです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

行く前にかかりつけの歯医者は行きました

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学に課されたもののみ

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前IELTS7.5でした。前期教養の中級英語のおかげか、学部2年の冬にクリアしたので特段何もせず渡英しました。ちなみに海外生活は初めてです。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

うがい薬、歯ブラシ、日本食、パソコン、(何も書き込みの無い小さい紙の英和辞典(試験に持ち込める場合がある。まあ、なかったですが、そんな問題じゃなかったのでもいいと思いますが欲しければ))

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Applied Microeconomics	20				
Health Economics	20				
Education Economics	20				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>授業は講義50分×2(連続)とWorkshopやTutorialでした。どの授業も興味をそそられる内容で面白かったです。授業に加えてWorkshopやTutorialで課題となっている論文やレポートを読んできてその場で議論する形になります。大麻の合法化のCost Benefit Analysisはテーマが刺激的でした。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>履修科目は60単位分なので3つになるかと思います。授業時間は講義50分×2(連続)とWorkshopやTutorial(指定された週のみで2週に一度ほど。50分だったり90分だったり科目によって違う)。予習は、結構必要だと思います。しなくてもどうにかりますが、試験前に論文を全部読むのは大変なので毎週ちゃんと予習していった方が良いでしょう。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>論文を読む量が多いです。教育経済は、計量経済をほとんどわからなくても履修可能と言っていましたが、実際は計量経済の知識がないと論文の理解度が落ちて苦しいです。あと、同じ学部・同じ授業を取っている友達を持つといいと思います。</p>
<p>⑤語学面での苦労・アドバイス等</p>
<p>論文を読むのが大変でした。あとはリスニング。元から得意(IELTS8.5)ではありましたが、1対1ならわからないなら聞けばいいものの、英語ネイティブ数人と一緒にいると、彼らの会話がわからない時に上手く割って入れなくなる。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>Endcliff。個別の部屋(バストイレ付き)にフラット毎(6-8人)共用のキッチン。ここしか選択肢がなかった。月8万と高めだが、清潔で、付近の治安も良く、2週間に一度キッチンの清掃が入るし、多くの学生が広大な寮の敷地に住んでいるので交流も盛ん。正規の学生も一年生の多くは同じ寮に所属する。とても良い。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>気候は、雨が多いですが短時間で止むものも多いです。気温は2月に来た時は東京とそこまで変わらず、その後も気温はあまり上がらない印象です(4月下旬に雪降ったり、6月でも最低気温は一桁もしばしば)。city centreまではちょっと遠めです。バスは学割でGBP1ですが待ち時間的にも歩いた方が早かったりします。お金はクレジットカードの海外キャッシングだけで乗り切りました(限度額は注意してください。大抵の学生向けのだと10万とかなので足りません)</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>しっかり食べて、よく寝る。それに尽きるかと。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>約16万円 (寮費:8万円、食費:7万円、旅行など雑費1万円程度)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>航空券:10万円</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

なし
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
サークル: 合唱(東大でもやっている)、野球 週末は友人と買い物に行ったりご飯食べたりする以外、基本課題に追われる感じでした。たまに野球の試合に行ったり。イースター休暇は2週間使ってイタリア旅行に行きました。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
充実していると思います。特に利用はしませんでした、オリエンテーションで色々説明がありました。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
ジムに行く人が多いです。図書館は借りれる期間も長くて良いのですが、試験前は混んで朝9時とかに行ってもほとんど埋まっていたので使いませんでした。Endcliffeの近くに小さな図書館があってそこは狙い目です。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
まだこれからですが、経済学部は省庁のサマーインターンが出せなかった(これは改善して欲しい)ので、3年の夏に行っというてよかったと思います。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
学業面では、然もながら、ヨーロッパの人生観とかに触れて、自分の将来について色々考えた
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
現地向けの就職セミナーのようなものも行きましたが、あまり役には立ちませんでした
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
環境がガラリと変わったことで、人間として成長できたと思う。自分とは人種も話す言語もバックグラウンドも異なる人たちと交流し、今までの自分の交流関係などの築いてきたものを無くした状況でチャレンジできる良い機会。これで、将来どこかに一人で行くことになってもある程度は生きて行ける自信になったと思う。これがどう生きるかはもう少し時間が経たないとなんとも言えないが、大きく動かされたのは事実。
②留学後の予定

サークルに復帰して、合唱芸術の向上に尽くしつつ、勉学も進めていきたい。
また、公務員試験の勉強・就活も行う予定。もう一度四年生をする予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

特に、ずっと実家暮らしの人とかは一度親元離れて、友達からも離れて、新しい世界に飛び込むという意味で有意義だと思います。あとは、語学力とかと相談してください。ただ、個人的にはある程度まで行ったら、向こう行って伸ばした方が効率的だと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東大の留学体験記(今皆さんが見ているだろう、これ。特に自分の行く大学の。他大学に交換留学された方も参考にした)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年6月21日

東京大学での所属学部・研究科等:	薬学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	The University of Sheffield
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input checked="" type="checkbox"/> 5.民間企業(業界:未定) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他()			

派遣先大学の概要

イングランド中部の工業都市シェフィールドにある国立大学。Russell GroupやRed brick universitiesの一員である。ペニシリンの抽出でノーベル生理学・医学賞を受賞したハワード・フローリー、フラーレンの発見でノーベル化学賞を受賞したハロルド・クロトーなどを輩出。

留学した動機

海外大学の教育水準・学生のレベルを体感することで、現在の自分が海外でどこまで通用するか知るため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部4	年生の	S1	学期まで履修
②留学中の学籍:	休学				
③留学期間等:	2015年	9月～		2016年	6月
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	S2	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	修士1	年生の	3月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				60単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				0単位
	留学後の取得(予定)単位				20単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年	4月入学		2017年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					
可能な限り早い時期が上記の時期だったから。					

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

想像以上に時間がかかり得るので、早めから進めておくと良いと思います。相手側は留学生の受け入れに慣れているので、不明な点はすぐに対応してくれます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

種類はTier4、申請先はUKVIを代行しているVFS Globalの東京のビザセンター。記入事項・必要書類が多く、とても時間がかかり、万が一不備があった場合、さらに時間がかかるので準備は早めに、慎重に行うと良いと思います。また、ビザの規定が突如変更となる可能性もあるので、情報は常に更新しておくが良いです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

なし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学に指定されたもの。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

IELTS7.5。英語学習に関しては教材・方法論ともに容易に入手できるので、日本国内でやれることをやり尽くした上で留学に臨むと良いと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

味噌汁。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
COM1001	20		COM1008	10	
COM1002	20		COM1009	10	
COM1003	20				
COM1005	20				
COM1006	20				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>教材はすべてデータで配信されるので、授業中はあまりメモを取らず、ライブ感を楽しみ、授業後に復習しました。Computer Scienceの授業はチームプロジェクトなど、実践的なものが多く、講義で学んだものをすぐに手を動かして定着させるスタイルでした。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p> <p>Computer Scienceの授業は各学期1つを除いて通年のものなので、1学期に6科目(60単位)取ることになりました。Computer Scienceのコースは他のコースと比べて授業時間が多いようで、毎日4~6時間程度授業があり、さらに課題や小テストの準備などで平均3時間程度授業外学習するので、週あたりだと40時間程度が最小限だったと思います。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p> <p>授業のカリキュラムはしっかりできているので、与えられたものは必ず習得すれば問題ないです。質問や相談については、先生に連絡すれば快く対応して下さるので、積極的に進むと良いと思います。</p>
<p>⑤語学面での苦勞・アドバイス等</p> <p>チームプロジェクトはイギリス人の中で行うことになりますが、当然向こうは同じイギリス人の方が仲良くなりやすいので、留学生は積極的にコミュニケーションをとる必要があると思います。英語が母国語ではないとしても、実際相手はあまり気にしていないので、臆する必要はないと思います。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p> <p>Allen Court。大学から希望を聞かれる際にCityを選択しておく、大学や街の中心地から近い寮になります。他の二つの選択肢は学校から遠く、徒歩40分程度かかるようです。また、寮を決める際に備考欄に希望を書いておくとイギリス人が多いフラットにしてくれるみたいです。何も書かないと基本的に日本人、アジア系や留学生が多いフラットになるようです。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p> <p>気候は暑くなく過ごしやすいと思います。冬は東京と同じくらいの寒さだと感じました。風がものすごく強いので体感温度が気温より低くなりやすいです。大学から近くに中心街があり食事・買い物はそこで済ませることができます。食事はまずいことはないですが、種類が少ないので飽きやすいです、市内の移動は徒歩で十分で、市内を出る場合はバス、ドラム、電車が使えます。電車の料金は当日高くなるので事前予約すると良いです。お金はすべてクレジットカードで済ませました。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p> <p>金曜・土曜の夜はクラブに出かける人が多く騒がしいので、比較的注意が必要です。日中は特に問題ないです。医療機関は利用していませんが、NHSは無料で利用できるようです。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>16万程度(寮費10万、食事5万、雑費1万)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>200万程度(航空券15万、ビザ申請・保険等準備費用25万、生活費月16万)</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

全学交換留学の奨学金 月8万
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
長期休暇はヨーロッパ旅行に行きました。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
専門の相談所、簡単な事務手続きや質問ができる場所があり、充実しています。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は24時間空いています。Student Unionにカフェやバー、軽食のお店やコンビニのような場所があるので、昼食はそこで済ませることができます。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
行っていません。
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
ビザの問題はありますが、日本人が海外で就職することは当然可能なので、海外で就職することも現実的に考えることができました。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
海外留学生向けのセミナーが4回ほど行われていました。参加しておく、留学生枠での選考やスカウトを紹介されます。
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
東京大学の学生とシェフィールド大学の学生を比べると、学力は東京大学の方が高いと感じましたが、自分の考え表現力や社交性に関しては劣ると感じました。ただ、これは決してどちらが素晴らしいということではなく評価する軸の違いであるため、国際的な状況で自分の能力を正しく評価してもらうには相手の評価軸を理解した上で自分の能力の表現の仕方を考える必要があると思いました。
②留学後の予定

大学院に進学予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

人生においてなるべく早い段階で留学することで、世界の広さとその中での自分の位置を知ることができるので、その後の人生に役立つと思います。留学経験は自信になり、一段と魅力的な大人に近づけると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ビザ手続きについての個人ブログ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):農学部・4年

参加プログラム:全学交換留学

派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:コンサルなど) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学は、イギリス中部のサウス・ヨークシャー州シェフィールド市を拠点とする国立大学で、Russell Groupの一員である。QS 大学ランキングでは世界 69 位を記録(2014/15)し、工学系や都市計画、政治学をはじめとする多くの分野で高い評価を受けており、ノーベル賞受賞者も大学関係者から 5 名輩出している。キャンパスは建物がひとつの場所に集中せず点在するような形になっており、シェフィールドの街自体が学園都市のようになっている。

留学した動機

英語圏の国で生活することで英語能力を高めたいこと、その上で多人種・多国籍な人々との協力や議論をできるようになりたかったため。さらに今後の進路を考える上で、異なる大学での学習機会や、そこで多方面のコネクションを得ることは選択肢を増やすにも選ぶにも有益だと考えたため。また特にシェフィールド大学は交換留学生でも学部学科を横断しての履修が可能であり、研究に直結するもののみならず多分野の学習ができることも大きな魅力であった。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2015]年 学部／修士／博士[4]年の[S2]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学／留学／研究指導の委託
- ③留学期間: 2015年 9月 ～ 2016年 6月 学部／修士／博士[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2016]年 学部／修士／博士[4]年の[S1]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2018]年 学部／修士／博士[2]年の[6]月頃に (行った／行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[86.5]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[6]単位
留学後の取得(予定)単位[92.5]単位
- ⑦入学・卒業／修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [9]月卒業／修了
- ⑧本学入学から卒業／修了までの期間: [4]年[5]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 3年での留学が望ましかったが、部活を行っていたため引退直後の4年の秋からに決めた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

分からないことがあれば先送りにせず逐一確認する。シェフィールド大学側は丁寧に返信してくれるはず。期限の超過や条件を満たしていないなどの例外は認められないと覚悟して最善を尽くすこと、と同時に交渉次第で認められる可能性もあるので何もせずに諦めないこと。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

とにかく早め早めに。ネット上に記入例もあるし、私営の相談窓口などもあるので、参考にしながら丁寧に記入すれば問題ない。申請から受領までは大抵2週間以内に済むと思われる。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

自分は出国の2ヶ月弱前に膝の前十字靭帯を断裂してしまい、その手術を出国前にするか否かで非常に悩んだ。結果的に延期することとなったのだが、その要因として現地の医療制度がある。交換留学生はビザの発行の際に NHS というイギリスの国民医療制度に加入することになり、現地で登録を済ませばかかりつけ医(GP)には無料でかかることができ、更に紹介を受ければ専門医への受診も無料である。ただし、専門医への受診はよほど緊急性が認められない限り数ヶ月待たされることはざらであるようだ。登録は現地でなければできないため

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学側より付帯海学及び OSSMA に加入するよう指示があったためこれらに加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学許可証の提出

単位認定の確認

秋卒業のための手続き

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の1年半前は IELTS7.0 だったが半年前に受けた IELTS では 6.0 に下がってしまった。シェフィールド大学では履修において学科ごとに異なる語学条件があること、overall だけでなくリスニングやライティングなどセクション毎の要件も細かく指定があるため注意が必要である(ただしある程度交渉次第で履修自体はなんとかなる)。

語学学習としては、研究室での活動で英語論文を読んだり、英語でのプレゼンを行ったり、また留学生達と英語で会話する機会があったことも有効だったと思う。リスニングには English as a Second Language や BBC などの Podcast をよく利用した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

むしろあまり持ってくる必要がない、大抵のものは手に入る。多少日本関連のもの(これもこちらである程度手に入るが)があると、日本に興味のある学生に喜ばれたりはする。寒さと乾燥には注意。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

- Data Analysis
- Biotechnology and Food Security
- Plant Habitat and Distribution
- Economic Analysis and Policy 1
- Economic Analysis and Policy 2
- Econometrics
- Statistical Inference and Modelling
- Probability and Statistics in Society

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

自分は Lecture が中心となっていたため授業形式自体は日本でのものとあまり変わらない。ただし Seminar や Tutorial

は予習を要する。試験に際しても授業内で扱わなかったところは自分で学習するようにとの指示が出されるため復習が多め。AssignmentなどはReferenceや書式についても細かく言及される。

秋学期に行った Plant Habitat and Distribution は、まず Lecture で分析に必要な理論を学び、Peak District というシェフィールド付近の国立公園に行き土壌と植生の調査・サンプリングをして、その後実験を行い、最後に論文に近い形式で scientific report を書きあげるといったものであったが、1 学期間で一連の流れをきちんと実践し身につけられる良い授業だったと思う。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一年間で 120 Credit になるようであれば、交換留学生は学部をまたいで自由に履修することができる。1 module あたり 10~20 Credit が基本で、module 毎に週2~4コマ(50分)といった様子である。

④学習・研究面でのアドバイス

基本 Lecture は英語になっただけで内容的に日本とそう大差ないと感じた。Seminar や Tutorial が中心のもの、グループワークが多く課されるものの方が、よりイギリス人や他の留学生と議論や協力をする機会が増えて面白いと思う。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

やはりイギリス人の中に自分だけが外国人という状況でのグループワークだと、主に言語が理由で議論しにくさを感じた。それでも遠慮せず不明確なところは明らかにし、グループの中で自分の役割を積極的に主張するというのは最初にきちんとしておくべきだろう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

自分はあまり現地の情報を調査せず、地理条件の良い大学寮を選んだ。実際市街地にも大学施設にも歩いていけるため非常にありがたく、また寮の設備やサービス(セキュリティ、共用部屋、キッチン設備、部屋は ensuit で個々にシャワー・トイレ付き、郵便物の受領・保管、などなど)はとても充実していて快適に生活できた。ただしこちらの大学寮は私営のもの比べて非常に高い。またフェイスブックなどで留学予定者の交流グループなどがあり、そちらで寮に関して情報交換や交渉しているというのを現地到着後に知った。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

天気はイギリスらしくしょっちゅう雨や曇りで晴れると少し感動できる。冬は 4 時には暗くなる一方で、夏は 10 時くらいまで明るい。

学生街といえる町なので、大学や市街地付近で大抵の用事はすませられる。交通機関もバスとトラムが発達していて、タクシーもそれほど高額でないため深夜も問題ない。

イギリスでは外食は非常に高額な一方でスーパーなどでの食材は日本よりも安い、そのため食事はなるべく自炊をするよう心がけた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常に良かったと思われる。自分は一度も被害に遭わず、事件事故について身近な話を聞くことも東京より少ないのではないかと。医療機関については NHS に関して知っておくといざという時対応しやすいだろう。ただ自分は結局医療機関を利用したことはなかった。食事は日本より不健康になりがちのようなので、偏りすぎないように気をつけた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

旅行などあまりしないようであれば寮費抜きで月 500 以下で生活できそうである。食費に 200 ほど割いていて、更にそのうち半分強が外食になっていた。後は交際費や交通費が占めていた。外食をもっと抑えれば更に節約できると思う。

・留学に要した費用総額とその内訳

旅行などで交通費・食費・宿泊費が増していたため、寮費抜きの総額は 8000 程になっていた。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学を通じて連絡があった JASSO から月額 8 万円の奨学金を受給していた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

シェフィールドはイギリスでトップの Student Union を有しており、各種スポーツ、文化体験、語学、日帰り旅行などのイベントは非常に充実している。それらに参加するほか、いくつかの Society(日本でいうサークル)や Club(部活、だがやや性格は異なる)でも定期的に活動していた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

自分はあまり利用しなかったものの、所属コースに合わせて個人用のメンターをつけるシステムが存在していた。また寮にもメンターがいて主に生活面での相談をすることができるようになっていた。英語に関しては ELTC という特に留学生向けに英語関連について様々なサポートやプログラムを実施する機関がある。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は 24 時間開館のものが複数ありとても便利だが、試験前などは非常に混み合う。スポーツ施設についても設備の整った大学のジムがあるが料金は私営のものよりも高い。食堂は、図書館や Student Union の建物の中に複数の take away の店やカフェがある。PC 環境は、図書館など各施設内に十分に備え付けられており、資料配付・提出や論文検索など全て大学のウェブサイト統合されており優れている。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

就職や将来の進路に関しては今回の留学を通じて視野がとて広がった。就活の仕方、就職後の選択肢も思っていた以上に多様であるのだと、留学中の交流で気づかされた。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

友人の様子を見ると、日系大手志望であれば、企業が一挙に集まりその場で選考を大幅に進められるロンドンやポストンなどのキャリアフォーラムに参加するのが最短のようであった。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

語学(英語に限らず)の向上、関心のある専門分野について学ぶこと、異なる学習・研究環境を経験すること、様々な人種・文化・経歴の人々との交流、外国で生活すること。これらは留学の動機にもよく挙げられる、言ってしまうと月並みなことであろうが、そのどれもがかけがえのない経験で、自身のものの見方を豊かにしているとともに、今後の取り組みの原動力になると感じている。

②留学後の予定

秋卒業しそのまま秋から大学院に進学予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

精一杯楽しむことができ、かけがえのない日々だった。好奇心の赴くままに、何事も試してみたらいいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



Peak District からの Sheffield、良い眺めでした。